

青梅市文化財ニュース

第350号

平成28年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

うぶ やす しゃ 産 安 社

御岳山に来る多くの方が、ケーブルカーを利用します。このケーブル御岳山駅前の、小高い山一帯を富士峰園地といい、現在は東京都環境局の管理する自然公園です。春のカタクリ、夏のレンゲシヨウマ、秋の紅葉、冬のロウバイなど、四季に自然が堪能できる場所です。しかし、数年前から鹿により希少植物が食べられる被害がでたため、昨年東京都により一帯に鹿柵が設置され、処置が功を奏し、食害は早い段階で食い止められました。入口が閉まっても出入り出来るよう、案内板が設置してあります。ご面倒でも、自然保護のためご理解ください。

また、ここには武蔵御嶽神社の所管する産安社が祀られていて、園地は神社の社有地でもあります。御岳は古くから、蔵王信仰の関東における一大霊山として知られ、奈良県の吉野山と同様に、山一帯にヤマザクラが植えられていました。今では十数本の古木に、その面影が残るだけですが、園地にある明治23(1890)年建立の『富士峰之花』歌碑には、桜の和歌が詠まれ、昭和初期の案内書にも、千本桜の名所と記されています。天保5(1834)年に著された『御嶽菅笠』には、「馬手なる山は富士峰の、千本の櫻咲乱れ、花のふぶきは春ながら、雪か雲かとあやまたれ」と記されています。馬手は手綱を持つ右手の事。ケーブルが開通するまでは、滝本から約3kmの杉並木の参道を登り、現在の御岳ビジターセンター前に着きます。ここから神社は左手(弓手)ですが、桜が咲く頃には、右手にある富士峰を訪れる方で賑わったことでしょう。



この産安社は、江戸時代には富士浅間社と称され、『新編武蔵風土記稿』には、「本社の北八町許を隔て、富士峯と云処にあり。小社、祭神はこのはなさくやひめのみこと木花開耶姫命、木の坐像(写真1)、長一尺餘、源頼朝建立する社なりと云、例祭四月初申の日を用ゆ」とあり、富士山本宮浅間大社と同様に木花開耶姫命(別名浅間大神)が祀られています。浅間神社は祭神名の木花から、ご神木は蔵王権現と同じ桜です。また、富士山本宮浅間大社の由緒には、申の日に富士山が現れた故事から、猿がご眷属(神様のお遣い)と記され、庶民の間では庚申信仰とも結びつき、富士塚や祠の前には、猿の像がよく設置されています。

写真1 新編武蔵風土記稿に記された坐像と考えられる木像

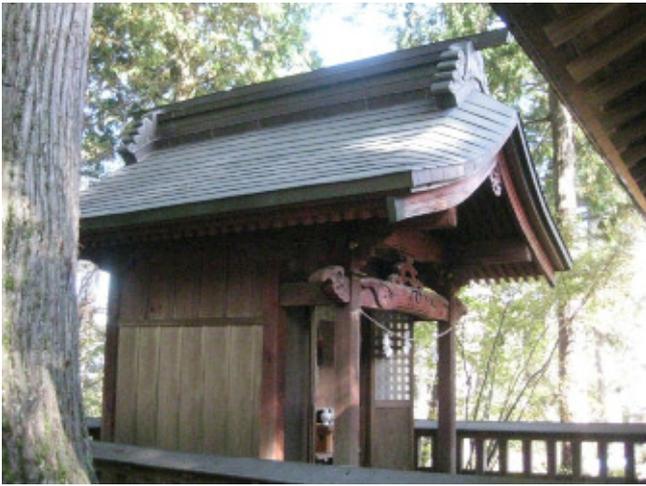


写真2 現在の産安社本殿



写真3 旧・大口真神社本殿（現・産安社本殿）

現在の産安社のご祭神は、木花開耶姫命とその姉神の石長姫命、神功皇后である氣長足姫命の三神です。石長姫は、名の示すように長い生命をもたらす神であり、神功皇后は、子を宿しながら出兵し、戦に勝利して戻り、応神天皇を産んだとされ、安産の御神徳があります。産安社の祭礼は、今日でも4月の山桜咲く頃に行われ、子どもの健やかな成長を願う、地元の母子らが参列する、賑やかでほのぼのとした祭典です。

現在の本殿（写真2）は、安政5（1858）年建立と伝える、御嶽神社背後に鎮座する大口真神社の元のおおくちまがみしゃの建物です。切妻造きりづまづくりの妻入建築で、大口真神社が昭和17年に再建されるのに先立ち、昭和12年に現在地へ移築されました。昭和初期の絵はがき（写真3）には、大口真神社として、今の産安社本殿が写っています。

周辺には安産スギ、子授けヒノキ、夫婦スギなどのご神木もあり、良縁、子授け、安産、長寿を願う人で賑わい、特に最近は女性に人気のある場所です。また、ここからの関東平野の眺望はすばらしく、南に御嶽神社、西に奥多摩の山並みも見所で、御岳に来た際は、ぜひ富士峰園地もお訪ねください。

（文責 須崎 直洋）